

二地域居住アーティスト・イン・レジデンス事業 アーティストが描く、「高倉山」

高倉山を歩き、物語を紡ぐ。

～3月20日(金・祝)、滞在制作の作品展示会を開催～

「二地域居住アーティスト・イン・レジデンス」は、今年で3年目。

アーティストが広野町に滞在し、町民の皆さんと交流しながら創作するこの試みは、外からの視点で「町の魅力」を再発見する活動です。

彼らが発信する感性が、新しい人の流れを呼び込み、町をより活気ある場所へと変えていく。そんな「人と地域の新しい結びつき」が、今まさに育っています。

春分の日午後、その集大成となる作品を「ひろの未来館」にてお披露目します。

アーティスト・イン・レジデンスとは

町外のアーティストが一定期間町に滞在し、町の風景や歴史、暮らしからインスピレーションを受けながら、作品を制作するプログラムです。

- **地域との連携** アーティストが制作過程を公開し、地域の皆さんとアイデアや感動を分かち合います。
- **多彩なアート連携** 絵画、彫刻、映像、インスタレーションなど、様々な表現方法で「町の魅力」を新たな視点から描き出します。

プロジェクトテーマ

高倉山～日常の風景を、現代表現で映し出す～

広野町の風景のなかにいつも存在している「高倉山」を舞台に、高倉城の伝説、町の木・サクラ、そして頂上からの日の出。当たり前にある町の風景を、アーティストが町を歩き、皆さんと語り合いながら、新しい物語として紡ぎ出しました。

作品お披露目会 のご案内

- 日時：令和8年3月20日(金・祝) 午後1時～
- 会場：広野町文化交流施設「ひろの未来館」
- 内容：滞在制作作品の展示、アーティストによるトークなど

参加アーティスト

問 広野町 復興企画課 ☎0240-27-1251

いしくら 石倉 かよこさん



圧倒的な行動力で活動を広げる現代美術家。国内外で「ピンク」を基調とした空間芸術を展開しており、今年度の審査では中学生からも高い評価を得てトップ通過で選出されました。



「余白のアートフェア」 出展作品

コメント

未来への希望をこめて、ピンクの作品を作っています。初めて広野町を訪れたとき、町の木が桜(サクラ)で、町の中にあくさんの「未来」があふれていることに不思議なご縁を感じました。どこかで見かけたら、ぜひ声をかけてください。

ロイ タロウ
Roy Taroさん



総合大学で法律を学んだ後、ペインティングや詩、ミュラル（壁画）など多岐にわたるメディアを横断して活動。広野町の「余白のアートフェア」への参加をきっかけに、町との深い縁を築いています。



ふたば未来学園の学生との共同制作

コメント

高倉山を中心に歴史や伝説について調べて制作をしています。町の皆さまへのインタビューや、ふたば未来学園の学生の皆さまとの共同制作をさせていただいています。

キム・ソンベクさん



韓国出身、東京大学大学院（博士課程）。環境の変化を「流体」として理解する表現を追求。今回は高倉山の風や日の出への想いを最新技術でアートに変換する試みに挑戦します。



過去に制作した作品展示

コメント

韓国から東京大学の博士課程に留学中のメディアアーティストです。町民の皆さんが高倉山と広野町の日の出について日々考えていることをインタビューさせていただいて、それらを生成AIに学習させてメディアアート作品を作る予定です。インタビューにご協力いただければ幸いです。

すずき あかり
鈴木 紅璃さん



東京藝術大学先端芸術表現科在籍。今回の公募では企画提案の内容が全応募者の中で最高得点を獲得。特定の場所に眠る、記録に残りにくい人々の人生を映像で描き出す新進気鋭の作家です。



コメント

高倉山にかつて存在した「高倉城」の城主の奥様の伝説(金鶏伝説)に興味を持ち、広野で映像作品を制作しています。女性の人生は歴史記録に残りづらいですが、そのことを逆手にとって、曖昧ゆえに多様な解釈が可能な作品を目指します。

「余白のアートフェア」 出展作品の制作